

大阪市立大学 同窓会 報

第 10 号

発行：大阪市立大学同窓会

http://www.osaka-cu.net/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138 大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内)
TEL: 06-6605-2113 E-mail: aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

平成22年4月、理事長兼学
長に就任してから6年の任期
を満了し、本年3月末をもっ
て退任することになりました。
この間、兄玉大阪市立大学同
窓会会長をはじめ、関係の皆
様方のご協力とご支援をいた
だきましたことに心より御礼
申し上げます。

この6年間、本学は重点三戦
略を中心に据えて、様々な取組
みや大学改革を進めてきました。
まず、はじめに、大学は学術
が第一であることから、「都市
をキーワードに、8学部10研究
科全てにおいて都市の構造や自
然、地形、防災、経済、産業、
市民など様々な要素の全てを含
んだ都市の学問としての「都市
科学の推進」をし、この学問の
成果を市民に還元するという意
味で「シンクタンク機能の強化」
を行ってきました。第二に、学
生だけではなく社会人も共に学

学長退任のご挨拶

大阪市立大学前理事長兼学長 西澤良記

び、社会に貢献していくという
ヨーロッパ型を意識し、社会人
大学院はもちろんのこと、学部
の専門教育を含め、「より高度の
専門的社會人の育成」を目指し
てきました。第三に、国際社会
で活躍する人材を育てるための
語学力を駆使したコミュニケー
ション力を基本にリベラルアー
ツで培う「国際力の強化」にも
取り組んできました。これらの
取り組みがその礎になって、わ
たくしの任期中にはまた途上で
あった教育改革のさらなる飛躍
をし、本格的な市大型のグロー

バル人材の育成をお願いで
きたらと願っております。
これまでの6年間の大阪
市立大学同窓会の皆様の多
大なるご支援ご協力を承り
心より感謝いたしております。
また、今後は新大学に
向けた取り組みが新たに始
まると思いますが、今後の
大学運営への今までの以上
のご支援をいただきますよう
にお願い申し上げますとこ
もに、同窓会の皆様方の今
後ますますのご発展とご健
勝をお祈り申し上げます。

重点課題のなかでの国
際力の強化について。
学長 (また)学長になってい
ないで(医学部の話になり

「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」
大阪に根ざし、世界に貢献

学長就任前で業務引き継ぎ等でお忙しいところ、
貴重な時間を割いていただき、今のお気持ちと抱負
から始まり、本学の取り組むべき課題及び大阪府大
との統合問題など、多岐にわたるお伺いした。
——この度は大阪市立大学
理事長兼学長ご就任誠に
めでとございます。最初
に、ご就任に際してお気
持ちと抱負は如何ですか。
学長 大学が激動期で責任
は大変重く、それだけやり
甲斐を感じています。前学
長は6年間にわたり見事に
ガバナンス改革を進められ
特に都市と共に歩む大学の
イメージのもとに府立大学
とともに新大学検討等に取
り組まれました。私はこの
問題を本格的に引き継ぎ
ていきます。また、自分の
カラーも出していきたいと
思っています。
——同窓生へのお披露目の
意味でご経歴をお願いしま
す。
学長 本学医学部1975
年卒、第三内科入局、同81
年大学院博士課程卒、カリ
フォルニア州立大留學後、
医学部附属病院内視鏡セン
ター部長、2000年第三
内科教授に就任、同12年医

生は私が人生で医学部を
選んだ動機は、高校時代に
好きになった女性今の家内
です(の身内に医者が多かつ
たためで、はじめは向心
もさほどなく、ゆめゆめ教
授を目指すといったつもり
はありませんでした。それ
がいつの間にか、附属病院
副院長、そして医学部長を
拝命し、どんどん臨床から
遠ざかってしまいました。
やっと臨床家に戻れると

具体的には、総合大学と
しての叡智を結集し、健康
寿命の延伸にむけて複合先
端研究を展開しつつ、元全
日本女子バレーボール監督

府大との大学統合につ
いてのお考えをいただけま
すか。
学長 新大学の検討につ
いては、いかに魅力ある新公立
大学にしていけるかが喫緊の
課題です。実現までは、そ
れぞれのプレゼンスを高め、
またお互いの得意分野をい
かに連携させてシナジー効
果を発揮させるか、大いに
建設的な議論を重ねていき
たいですね。先進医療と情
報工学の医工連携など、平
均寿命も健康寿命も短い大
阪という地域はかえってモ
デルケースになりやすいの
で期待できます。食に関し
ても連携でメリットが出る
要素が大きいです。

最後に、大阪府大同窓
会は全学ベースの組織で会
報紙は5万部発行していま
す。同窓会への要望をお聞
かせ下さい。
学長 お願いはいろいろあ
ります。一つは卒業生で社
会人として成功された方々
から、何か大きな人生訓を
講義していただく機会を作

次にはやはり資金的なご
支援をお願いしたいです。
構内の食堂や部室といった
アメニティ施設はかなり老
朽化してきていますが、施
設整備費という市からの補
助は出ていないので直せま
せん。私自身、部活を通じ
て社会人としての人間形成
に役立った貴重な体験から
教育後援会とは別に同窓会
からも特別なご支援をお願
いしたい。
——寄付については、大学
と同窓会ですみ分けをする
必要がありますが…。
学長 今「夢基金」への
ご寄付をお願いしています
が、この度、同窓会が取り
組まれた五代友厚銅像寄付
金に比べて具体性に欠ける
点は、今後大いに検討する
必要があります。

——本日はご就任前のイン
タビューをご快諾頂き、ど
うも有り難うございました。

日時：平成28年3月17日(木)
場所：田中記念館・同窓会事務局会議室
●インタビュー
羽原 顕三 (全学同窓会広報委員・有恒会副会長)
田中 祐尾 (全学同窓会広報委員・医学部同窓会理事)
学部長就任、同14年全国医
学部長病院長会議会長など
を歴任しました。
この間、国内外の学会活
動は枚挙に暇なく、現在の
メインテーマは内視鏡学や
消化管病態生理学です。ま
た、病院職員災害救援ボラ
ンティア「なにわすまいる
ず」代表や一般財団法人も
のづくり医療コンソーシア
ム理事長なども務めていま
す。
——それは、当面取り組
まれます案件などについて
お話しいただけますか。
学長 まず基本的に、前任
者西澤良記先生の示された
6年間の基本方針重点三戦
略(注)を踏襲して進めたい
と思います。そのうえで私
はやはり解りやすいスロー
ガン掲げたいです。その
スローガンは「笑顔あふれ
る知と健康のグローバル拠
点」です。

の柳本氏と小型人工衛星
「まいどー号」の打ち上げを
企画した青木豊彦氏に学長
特別顧問になって頂き、「ス
ポーツ」と「ものづくり」
で市民とフラットな関係で
健康な街づくりをしていき
たい。ここには衣食住が関
係します。ICTも大いに
関わってきます。各学部・
研究科で知恵を絞って研究
やイベントを形にしていき
ます。すでに、梅田のグラ
ンフロント大阪には、健康
科学イノベーションセン
ターを開設しており、「疲労
科学」が形になり、疲労度
の測定や抗疲労食品も開発
されています。また、あべ
のハルカス21Fに位置する
医学部附属病院先端予防医
療部附属クリニック「Me
d City 21」での人間
ドックで市民の健康を守り
つつ、いただいたサンプル
の遺伝子解析などで得られ
たビッグデータで未病の段
階での超早期診断に結びつ
けることを考えています。
「グローバル」はグローバル
とローカルを融合させた造
語ですが、公立大学である
大阪市立大学の役割である、
大阪市という都市に根ざし
たローカルな貢献に主眼を
置きつつ、それをモデル
ケースとして日本、世界に
発信しグローバルに展開し
ていきます。

まず、海外の連携大学が
8校から26校に増え、とく
に香港中文大、メルボルン
大など世界大学ランキング
上位の大学が増えています。
これに伴い、学生はインバ
ウンド、アウトバウンドとも
5倍に増加し、現在受け入れ
派遣とも学生総数40名す
つとなつていきます。寄宿舍
を増やしたがりず、充実を
目指しています。在関西4
公立大学と4私立大学が連
携しASEANとの医療連
携などを目標としています。
現在、本学の海外拠点につ
いては、上海、バンコク、
インドネシアなど数カ所あ
りますが、長期滞在設備が
課題です。

学長 大阪大学で検討し、と
りまとめた「新・公立大学」
大阪モデルにある通り、両
大学の有するリソースを最
大限に活かすことにより、
教育力、研究力及び地域貢
献力の向上が図られ、新た
な公立大学のモデルとして、
大阪の発展を牽引していき
たいと考えています。魅力
ある新大学を創るためには、
別途の初期投資など、財政
基盤がしっかりしていない
とダメだと思っています。
——最後に、大阪府大同窓
会は全学ベースの組織で会
報紙は5万部発行していま
す。同窓会への要望をお聞
かせ下さい。
学長 お願いはいろいろあ
ります。一つは卒業生で社
会人として成功された方々
から、何か大きな人生訓を
講義していただく機会を作

りたので、ご協力をお願
いしたい。出来れば、入学
直後の1回生を対象にした
いです。彼らに夢と誇りを
持たせ、大阪市立大学へ来
て良かったと思わせたいで
す。
——次にはやはり資金的なご
支援をお願いしたいです。
構内の食堂や部室といった
アメニティ施設はかなり老
朽化してきていますが、施
設整備費という市からの補
助は出ていないので直せま
せん。私自身、部活を通じ
て社会人としての人間形成
に役立った貴重な体験から
教育後援会とは別に同窓会
からも特別なご支援をお願
いしたい。
——寄付については、大学
と同窓会ですみ分けをする
必要がありますが…。
学長 今「夢基金」への
ご寄付をお願いしています
が、この度、同窓会が取り
組まれた五代友厚銅像寄付
金に比べて具体性に欠ける
点は、今後大いに検討する
必要があります。

——本日はご就任前のイン
タビューをご快諾頂き、ど
うも有り難うございました。

大阪市立大学 夢基金 ご協力
のお願い

大阪市立大学は平成18年に法人化したことを受け、大学運
営の財源の1つとするため、外部資金獲得のための寄付募集を
始めました。第1期を「はばたけ夢基金」として平成21年10月か
ら平成26年9月までの期間とし、第2期を「夢基金」として平成
26年10月からスタートさせました。

運営交付金が年々厳しい状況になっていく中で、大阪市立大
学が魅力ある大学として、誇れる母校としてこれからも発展して
いくためには、基金を大学のグローバル化や教育活動、キャンパ
ス整備に活用し成果を出していくことが必要です。

また、奨学金のように将来にわたって安定的に活用すること
を考えると、原資としてはさらなる積み上げが必要となります。
さらに、本学の教育・研究設備及び環境も他大学に比べると、ま
だまだ整備を必要としているところが多くあります。
皆様の継続的なご支援をお願いいたします。

大学統合問題の動き

大阪府大との

昨年9月、大学統合問題に関連し、市大の在生学生を中心に2000余名による「現行の大学統合計画の白紙撤回を求める要望書」が大阪府及び市議会を始め大阪市大及び大阪府大学等に提出された。

この要望書に対し、昨年10月、本学では西澤良記学長名で「今後の大阪市立大学について」のメッセージが公表された。

その後、本年1月、大阪市議会において両大学の統合による新大学実現に向けた中期目標変更に係る議案が可決され、「新大学」を目指すことになり、西澤学長のコメントがホームページで公開された。

1) 現行の大学統合計画の白紙撤回を求める要望書(平成27年9月)

両大学は「市井の精神に発した、自主独立・自由進取の気風あふれる建学の伝統」(市大・大学憲章)、「地域に信頼される知の拠点」(府大・基本理念)の精神をいまこそ思い起こしてください。私たちは、両大学が市民・府民の願いを尊重して大学統合計画を撤回し、これまで通り互いに独立した公立大学として、それぞれの伝統と特色を生かして発展することを望みます。(一部抜粋。以下省略)

2) 学生、卒業生、保護者の皆様へ西澤学長のメッセージ
「今後の大阪市立大学について」(平成27年10月)

大阪市立大学と大阪府立大学との統合につきましては、当初、平成28年度の大学統合をめざし、大阪府、大阪市及び両大学の四者で検討を進めてきましたが、平成25年度秋の市会において、統合同関連議案が否決されました。その後、改めて、平成26年4月に知事と市長から「今後は、この間の大学統合に関する議論の状況を踏まえ、両大学で主体的に大阪における公立大学のあり方について検討するように」との指示がありました。両大学としては、さらなるグローバル人材のあり方を考えると、大阪の発展を牽引する「知」の拠点として、新大学の実現が望まれるものと考え、平成27年2月、「新・公立大学」大阪モデル(基本構想)を策定・公表したところです。本学としましては、2月に策定したこの「新・公立大学」大阪モデル(基本構想)について、今後とも大阪府立大学と議論をし、グローバルキャンパスの開設など、さらなる連携強化を図っていきたいと考えています。

新大学の検討や大学の考え方、「新・公立大学」大阪モデル(基本構想)につきましては、これまで折りに触れ、ホームページ等においても情報を公表していますが、「新・公立大学」大阪モデル(基本構想)はまだ骨子の段階です。大阪市立大学と大阪府立大学との統合による新大学の実現につきましては、現在、大阪府議会と大阪市会で審議中であり、決定している状況ではありません。今後、両議会で統合同関連議案が議決され、新大学の方向性が確定した段階で、在学生や保護者をはじめとしたステークホルダーの方々に説明する機会を設けさせていただき、皆さまからもご意見をいただきたいと考えています。

また併せて、統合同議論の有無にかかわらず、本学においては、これまでも増して教育改革を推進する計画を立てています。初年次での集中教育による英語力強化、初年次教育を効果的かつ集中的に行うためのクォーター制度の導入、留学(海外研修)の促進による国際力強化等、グローバル人材の育成に力を注ぎ、学生の皆さまに世界で活躍することをめざして学んでいただける環境を整えていきたく考えていますので、皆さまもこれまで以上に高い目標を掲げ、視野を広げていただきたいと思います。

3) 公立大学法人大阪市立大学に係わる中期目標の一部変更について
—西澤学長のコメント(平成28年1月)

大阪府立大学と大阪市立大学との統合による新大学実現に向けた中期目標変更に係わる議案が昨年12月22日に大阪府議会で可決され、本年1月15日に大阪市会でも可決されました。これにより、新大学設立の方向性が明確になり、今後、その大学がより確実に発展していくための仕組みや環境について議論が進められていくこととなります。

また、あわせて、昨年2月に大阪府立大学とともに策定いたしました「新・公立大学」大阪モデル(基本構想)を踏まえ、今後、大阪の発展を牽引する「知の拠点」をめざし、魅力ある新大学の実現に向けてさらに議論を深めていきます。

なお、平成28年度及び新大学開学までの入試については、大阪市立大学として従来どおり実施していきます。また、入学から卒業までの教育カリキュラム、授与される学位についても影響を受けることはありません。



平成27年12月18日(金)、本学の創立135周年記念フォーラム「都市大阪の創生く未来への提言」(共催：日本経済新聞社)が、グランフロント大阪ナレッジシアターにおいて約350名の参加者を得て開催された。このフォーラムは、大阪市立大学が135周年を迎えるにあたって、その建学の理念に鑑み都市・大阪とともに発展してきた公立

大阪市立大学創立135周年記念
フォーラムを開催
「都市大阪の創生く未来への提言」

大学として、都市・大阪の未来に向けて、新たな視点を提供し、都市の発展に寄与する大学としての使命を明らかにすることを目的に行われた。

●基調講演Ⅰ

「ダントツの強みを磨け」企業と国の構造改革」コマツ相談役坂根正弘氏(本学OB)

●基調講演Ⅱ

「大学の未来」21世紀、人生で3回大学に入る時代が来る」東京大学教授吉見俊哉氏

●特別対談

大和ハウス工業の樋口武男会長と本学OGでシンクタンク・ソフィアバンク藤沢久美さんとの特別対談では、樋口会長の経営哲学が

その人柄とともに引き出され、多くの方が話に引き込まれた。

●パネルディスカッション

「成熟と創生の交わるころ、都市大阪の未来へ」

▽パネリスト：長尾謙吉教授、渡辺恭良健康科学イノベーションセンター所長

中尾正喜特命教授、鈴木洋太郎教授、嘉光市准教授

▽ファシリテーター：シンクタンク・ソフィアバンク代表藤沢久美氏

◇

長尾教授によるパネルディスカッションの趣旨説明は次の通り。

「地方創生」がブームになっている。大都市としての大阪の未来については、「成熟と創生の交わるころ」を生かせるかがポイントとなると考えています。大阪は第二次世界大戦中から「地盤沈下」や「経済低

迷」などネガティブな文脈で語られることが多かった都市です。しかし、大都市圏として世界有数の規模を誇っており、都心部の経済

活動の密度は注目すべきものであります。大阪市立大学は都市型総合大学として「大学は都市とともに、都市は大学とともに」を理念に

大阪市立大学大学院生活科学研究科主催
生活科学シンポジウム

超高齢社会における
個人と地域の幸せとは何か

篠田美紀(生活科学部同窓会)

2016年2月13日(土)大阪国際会議場グランキューブ大阪にて、大阪市立大学生活科学研究科主催の「生活科学シンポジウム」

「超高齢社会における個人と地域の幸せとは何か」が開催されました。本シンポジウムは大阪市立大学地域連携センターの協力と、大阪市、大阪市立大学生活科学研究部同窓会、大阪府社会福祉協議会、大阪市社会福祉協

議会の後援を得て一般公開

歩んできた大学です。大阪の現実的な都市課題を対象にしつつ、創生につながる研究について討議する。

(編集部)

が執り行われました。

内山節氏による「豊かさとはどこに生まれるのか」都市と農村の関係をとおして」と題された講演では、近代的な社会システムの限界と、伝統的な暮らしから得られる再創造のヒントについてのお話がありました。

島崎謙治氏による「近未来

所道彦教授の総合司会のもと、西川禎一研究科長、宮野道雄大阪市立大学副学長による挨拶の後、前半部では、哲学者の内山節氏、政策研究大学院大学教授の島崎謙治氏をお迎えし、両氏による講演、後半部では3名のゲストパネラーによ



基調講演 島崎謙治氏



基調講演 内山節氏

来の社会と生活―医療を素材として」と題された講演では、日本の今後の人口構造の大変容と、それが医療、介護に直接的、間接的に及ぼす影響について、具体的にお示しいただきました。

驚愕の未来推計に圧倒される思いでしたが、本講演においても、制度は日々創るものであり、私たちが未来に向けてどう創っていくのか？が問いかけられました。

続くパネルディスカッションでは、岩間伸之教授のコーディネートのもと、太田佳美氏(佳豊庵)川人ゆかり氏(ローカルキャリアカフェ)西山進氏(和歌山県企画部地域振興局過疎対策課長)が、「農村地域で暮らすこと」について、各方の活動を通じて見えることを発表していただき、その後、内山氏、島崎氏を交

えた議論と質疑応答がありました。

太田氏からはフルーツを通しての多面的経営や海外との交流の取り組みについて、川人氏からは、都市部と地域を繋ぐ地域移住や地域の現状に則したキャリア教育、地域事業へのアドバ

イス活動の紹介、西山氏からは、高い高齢化率と過疎化に直面している和歌山県での自治体の取り組みの報告がありました。

前半の講演で問いかけられた「新たな創造」に向けて、既に歩み始めているパネラーの方々の個人、地域、自治体の具体的な活動に、大きな力をいただきました。

「幸せとは何か?」「幸せはどこにあるのか?」短い時間で盛りだくさんの大きなテーマでしたが、次に続く貴重な機会となりました。



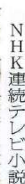
田中記念館のメタセコイアと大阪市立自然史博物館・塚原実氏と筆者による新パネル

「創造性のシンボル・メタセコイア」 都市研究プラザ・経営学研究科・教授 岡野 浩

学の大胡先驢教授と中央大学(東京)の鄭万鈞教授が明らかにした。その知らせを胡教授から受けたカリフォルニア大学バークレー校のチェイニー教授(Cheney)は、戦争で混乱していた1948年に現地を訪れ、種子を採取し苗木を育て、三木教授に「日本で保存のための会を設立してくれば苗木を送ると伝える。

1950年、占領下の日本に100本の苗木がフリーパスで到着し、その前年には昭和天皇にも届けられる(1987年の歌会始には和歌にも詠まれる)。当時、杉本町キャンパスはGHQに接収されていたが、本学に設置された「メタセコイア保存会」は、挿し木により培養し、小中学校などに配付した。

現在、交野市私市の附属植物園には、1950年にアメリカから贈られた100本のうちの1本が大木となっている。これに因んで名付けられた田中記念館のレストラン「メタセコイア」で、市大生御用達であった憩務所・夏灼の「レモンライス」を食べながら鑑賞することが楽しめる。一つになっている。埋め込まれた記憶とともに創造性の種がその辺りに潜んでいるかもしれない。



のさむともか氏(経平6卒)が担当した。

五代友厚銅像除幕式が五代

行われた。

三月一日(土)午後、銅像完成を記念し、除幕式典と併せて護国会及び記念パーティが行われた。この式典にあたり、総合同会はフリーアナウンサーの銅像完成を記念し、除幕式典と併せて護国会及び記念パーティが行われた。この式典にあたり、総合同会はフリーアナウンサー

約500人が出席
盛大なイベントに

五代友厚銅像
完成記念式典

たので多くの教職員・学生が憩いの場として五代さんに親しみ、心にとめてくださる」と挨拶する。この一語、後、除幕が行われ五代像が姿を現した。

五代像を背に、西澤良記・理事長兼学長は、「五代は大阪の産業・商業の復興に努めた。また商業発展に対して人材を育てるために、

初詣の途中には、しばらく五代像を見つめ、「いい、すごい偉大な人ですわね」と感慨にひたつていて、最後には、学生に向け「五代さんのようなチャリジ精神と勇氣をもって世中の荒波に飛び込み、白の夢に向かって挑んでほしい」との言葉で結んだ。

(※)五代友厚記念特集号では、平成28年2月28日現在で掲載しましたが、それ以降の寄付者は次の通りです。

●10万円

村山廣甫(法昭41卒)

- 1万円
 - 筋原 章博(商昭60卒)
 - 寺井 まりな(商平25卒)
 - 沖 誠一郎(経昭43卒)
 - 景山 滋夫(文昭62卒)
 - 筋原 祐子(生科昭60卒)
- 現在の寄付金合計
 - 4905万円(1014件)

(五代)プロジェクト事務局

「府中大統合は大阪の公立大
学のあり方を問うものであり、我が国が抱える問題に
対して、公立大として解
決方法を模索する場を作り
たい。これまで積み上げて
きた歴史とブランドをス
ムーズに新大学に引き継ぎ
が出来る様にお願いたし」と
説明した。また先日、本

平成28年
4月4日、本学の平成28年度入学式が挙行された。今年度の本学の入学生は、学部入学生が1544名、

[illegible]

海外・支部名	代表者氏名	学部卒年	連絡先(メールアドレス)
上海支部(上海友好会)	吉田 耕平	商 昭 63	
台湾支部	大寺 容典	経 平 7	
バンコク支部	濱田 洋子	文 平 2	
ジャカルタ支部	安藤 恭	生 平 7	
シンガポール支部	森田 宏	商 昭 45	
ニューヨーク支部	松井 みさき	経 平 7	
シドニー支部	祝野 丈夫	商 昭 39	

※転勤転居、海外赴任等異動の際は下記有恒会本部事務局か支部連絡先へご連絡ください。

有恒会本部事務局 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 大阪市立大学内
Tel 06-6605-2087 Fax 06-6605-2088 Email : yukokai@ado.osaka-cu.ac.jp

2016年 有恒会支部代表者会議

平成28年3月5日(土) 14時から学術情報総合センター10階会議室にて有恒会支部代表者会議を開催した。

の姫路支部、静岡支部、東京支部の紹介があった。

第二回日中学生芸術交流大阪展

この度、上海大学、大阪府大、大阪市大の三大学交流展を大阪のCATで2月18日から三日間開催させて頂きました。当交流会は昨年に続き二回目を迎える大学関係者及

び同窓会の皆様に多大なご支援を頂き感謝致します。

学生はグローバリ化と日中友好におきましては2回目であります。学生自身が自主的に行動するようになりま

南部陽一郎先生の追悼シンポジウム

大阪市立大学大学院理学研究科教授 糸山浩司

本学特別栄誉教授で、戦後の新生大阪市立大学理工学部着任後、渡米されるまで強力な理論物理学研究グループを率いておられた南部陽一郎先生は、2015年7月5日、94歳

の生涯を終えられた。

先生の輝かしい業績等については既に理学研究科HP、本年度のNEWS LETTERに詳しく書かれているので、ここでは昨年9月29日、学術情報センターで行われた追悼シンポジウムの最後に(私見かもしれないが)話した事に触れておきたい。

現在日本人ノーベル賞受賞者は20人を超えるが、戦後10年以上経って生まれた私が小・中学生であった頃といえば、素粒子論、湯川秀樹・朝永振一郎両先生の受賞があるのみだった。メディアの多くは、この偉業を「フジヤノトビウオ」と同様、戦前・戦中時に起きた奇跡という印象と共に捉えていた。明治維新後の急速な西洋化、戦後の驚くべき復興をもたらした日本人は同時に西洋の文化を素



平成23年6月の、特別栄誉教授称号贈呈式後の記念撮影

また、会議に先立ち、リニューアルした田中記念館と五代友厚銅像設置場所の見学会を行った。

また、会議終了後、学術情報総合センター10階研究者交流室にて懇親パーティを開催した。(編集部)

した。課題はいろいろありますが、来年の上海展は大阪市大がリーダーとして新たな挑戦と改革をしなければと考えております。具体的には①資金的な問題、②組織改革、③新しい企画、④広報、⑤学生の社会人としての育成、等があります。(代表顧問 原田利明)

2015年度ホームカミングデー 生活科学部同窓会講演会

ワインの効用とおもしろさの科学 & ワインテイスティング

2015年11月3日、学術情報総合センターにて山梨大学生命環境学部ワイン科学研究センター准教授久

早く取り入れるマネの上手な民族という世界からの揶揄に晒されている事をその後も度々痛感させられたのは、私だけではない。

南部先生は、西洋人もが無条件に賞賛する独創性をもち、我々が持たざるを得なかったこの劣等感の少なくとも一部を払拭して下さった。

会員ひろば

50年ぶりの母校訪問 応物三八会同窓会

平成27年11月16日、17日にかけて久しぶりの応物物理38年卒の同窓会を杉本キャンパスを中心に開催した。

午後1時、学術情報総合センター内のレストラン野の「はなハウス」に10名があつたり、恩師の人見先生にもご同席いただき、久しぶりの再会を喜んだ。まずは300億円もかけたといわれる大阪市立大学が誇る学術情報総合センターの威容に驚きながら、屋上ガレ

デムから360度展開する「民の賑わい」を眺望した。北には日本最高を誇るあべのハルカス、南には世界遺産

学術情報総合センター見学の後、場所を工学部同窓会室に移し、工学研究科電

青桃会OBはできるだけ表に出ず、学生自身が考えて自習してくれる事を期待しています。OBの皆様にはまず協賛金へのご協力と新しい企画のアイデアがあればいただきたく宜しくお願いします。

久本雅嗣氏は、ワインの「色」「香り」「味」に着目し、それに関わる成分の化学構造や性質、生成する要因、その他ワインや生体に関与する影響を明らかにすることで、ワインのおもしろさや品質の向上を目指して日々、研究を進められているワインのプロフェッショナルです。

まず、現在の国内外のブドウやワインの生産現場や消費動向についてお話があ

本雅嗣氏(2004年・食品栄養科学専攻後期課程修了)に遠路お越しいただきま

り、関税やワイン投機と価格の関係などワイン業界の裏話や、近年、チリやスペイン、イタリア産も好まれるようになってきていること、安価で美味しいワインを手

ワインに加えミネラルウォーターまで山梨で発注、ワイングラスも用意いただき、プロのテイスティングの手ほどきを受け、参加者はすっかり、いい気分

お知らせとお願い

全学同窓会の電話番号・FAX及びメールアドレス等をお知らせします。尚、住所変更の連絡及びお問い合わせは出身先の学部同窓会までお願いいたします。

- 1) 電話番号(変更): **06-6605-2113**
(FAX番号は従来と同じ06-6605-2088)
- 2) メールアドレス(新規): **aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp**
- 3) 学部同窓会電話番号:
 - 有恒会(文系学部同窓会) 06-6605-2087
 - 工学部同窓会 06-6607-8373
 - 医学部同窓会 06-6645-2936
 - 看護系同窓会(よつば会) 06-6645-3511
 - 理学部同窓会●生活科学部同窓会
 - 創造都市研究科同窓会 06-6605-2113

を予定している「宝塚セイラ雨が降り出し、雨に濡れレイ荘」に車を急がせた。宝てまでゴルフをするべきではないとあっさりあきらめた3名が先着しており、温泉茶店での懇談会に変更された。

楽しい歓談はカラオケ大会を挟んで朝方まで続いた。

次の朝元気のあるものは早起きして近所の宝塚高原ゴルフクラブに玉ころがしに出かけたが、残念ながら前半戦を終了したところか

会員投稿コーナー

大阪市立大学 生活科学部の歴史

岩堂美知子(家政学部昭和40年卒)

1



③茶珍初代家政学部部長

市大(いちだい)を思い浮かべる時、真っ先に浮かぶのは友の顔と顔。次に恩師、そして学舎や周囲の環境。学校の歴史について興味を持ったのは卒業してから。所属していた生活科学部(当時)は家政学部については同窓会誌・名簿を通じて学んだ。生活科学部の前身は1921年(大正10年)、大阪市西区の子女の教育のために設立された大阪市立西区高等実践女学校に遡る。この女学校は西区費で運営され、質実剛健・自治奉仕を校是として発展した。1924年(大正13年)に校名を大阪市立高等西華女学校と改称。昭和に入り女子教育が進展する中で保護者や西区の努力・実業界からの援助(旧土佐藩の岩崎弥太郎氏の旧邸地を譲り受けるなど)を得て、当時としては珍しい鉄筋コンクリートの西長堀学舎が建設(1937年・昭和12年)。これが後の家政学部学舎第一号となった。現在70歳以上の卒業生が通学した旧学舎である(写真①)。



①当時の校舎

第二次世界大戦後、教育後援会と学校当局との昇格運動の成果で1947年に女学校に加えて被服・英語・育児科を有する大阪市立女子専門学校が女学校に新設され、翌年には生活科が増設。当時は激動の学制変革期、北村春吉校長や教育後援会の猛烈な昇格運動の結果、1949年(昭和24年)に4年制の男女共学の「家政学部」として大阪市立大学に統合されることになった。北村氏(写真②)はもと府立女子専門学校の教授で数学者である。新制大学でも教壇に立たれていて懐かしい。日本最長寿の元日本代表サッカー選手だったと聞く。



②北村氏

「家政学部」(のちの「生活科学部」)はこうして新しく大阪市が設立した総合大学の一学部として誕生した。一学科(家政学科)で食物学・被服学・住居学・児童学・社会福祉学の5専攻であった。この当時すでに40年余の歴史を持ち衣食住や都市生活環境に関し多くの研究業績をあげてきた「大阪市立生活科学研究所」

(現・環境科学研究所)をはじめ、専攻の支柱となる分野の新進研究者を迎えて、家政学部は研究教育の充実をはかった。初代学部長は研究所々長だった茶珍俊夫氏(写真③)、そして浦上智子氏、村田希久氏はいずれも食物学教科員だが、その名は専攻を超えて鳴り響いていた。浦上氏はのちに定年退職後に1億円を大学に寄付、アジア女子留学生のための浦上奨学金を創設された。

一方1951年(昭和26年)に女子専門学校は役割を終えて閉校となった。大正時代から昭和初期、当時の女学校や専門学校を卒業された方々は大阪の教育界や官公庁の仕事、さらには地域の諸活動に力を注ぎ、率先して女性活躍の道を切り開いてこられた先輩が少な

◇編集後記◇

今年も夢と希望に満ちあふれたフレッシュマン達が市大の門をくぐった。今後は初心の気持ちを忘れずに大学生活を大いにエンジョイしていただきたい。(編集人)